

GIGAスクール構想の 実現は

竹村 仁司議員



子どもたちの学びを保障できる環境に

教育部長



▲GIGAスクール構想(佐屋小学校)

問 GIGAスクール構想は当初、計画より前倒しになっている。要因は。

答 災害や感染症の発生、学校の臨時休業などの緊急時に、※ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急に実現するためだ。

問 文科省の当初の構想はクリアしているか。

答 令和2年度内に市内小・中学校全児童・生徒1人1台の学習用端末の導

入及び高速大容量の通信ネットワークの整備を完了した。

問 ソフトと指導体制は。

答 個人の習熟度に合わせ学習できるドリルソフト、課題提出やコミュニケーションツールなどを導入し、教師間での利用や一部授業での使用が始まっている。学習用端末の使用に関しては、教員に対し動画やマニュアルを活用するとともに、不明

点や質問に対しICT支援員がサポートする。

問 電子黒板といった周辺環境は。

答 プロジェクターを利用した電子黒板については、近隣自治体より先行して整備を進め、小学校・中学校ともに普通教室と特別支援教室に設置され、積極的に活用されている。

問 ICT導入運用を加速していくことで、例えば名簿や出欠管理、授業の準備や成績処理などの校務の負担を大幅に軽減することができる。

子どもたちのための構想と思われがちだが、先生のためのGIGAスクール構想でもある。この点、市としての準備、取り組み、教員の働き方改革につなげる構想は。

答 学習用端末の活用により、課題の作成や配付、採点や集計など、教員による作業での負担軽減を

図ることができる。今後は校務支援システムとの連携など、教員の働き方改革も一層の促進を図る。

問 市長の見解は。

答 教育現場でいかにデジタル機器を活用して授業を進めていくか、またこの機器を使うことにより子どもたちの学習はもろろん、家庭生活でも活用してほしい。

※ICT(情報通信技術)